

キャリア教育調査研究委員会

一 テーマ

児童生徒一人ひとりが夢や希望をもち、自己実現を目指して自己の個性を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てていくキャリア教育のあり方

二 テーマ設定の理由

学習指導要領において、特別活動を要とし学校教育全体を通してキャリア教育を進めていくことが示されている。変化の激しい社会にあつて、個々の児童生徒が将来における職業生活に備えて、学校における社会との接続を意識した「社会的・職業的な自立に向けて必要な資質・能力」の育成は、自己実現を図る上で重要なものとなっている。そこで、キャリア教育委員会では、テーマを基に、各校のキャリア教育における課題を共有し、

『1 キャリア・パスポートの活用の工夫』

『2 学校と地域社会との連携の推進』

『3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する』

に重点をおき、研究を進めていきたいと考えた。

三 研究の経過

5月 2日 (火)	第1回委員会	総委員会及び研究計画立案
5月18日 (木)	第2回委員会	各校の実践報告と情報交換
10月19日 (木)	第3回委員会	研究の進捗状況と情報交換
11月16日 (木)	第4回委員会	キャリアフェス参加
11月27日 (月)	第5回委員会	総委員会及び研究のまとめ

四 研究内容

1 「キャリア・パスポート」の活用の工夫

(1) 上田市立城下小学校の実践から

本校は、『キャリア・パスポート』にとじこむものに『自分の成長できたこと』や『これから実践していきたいこと』など『キャリア教育の学びの視点』に立ったふり返りを書くことができる欄や項を設けることにしている。このようにした背景には、例えば、学期のふり返りや行事のふり返りにおいて学期や行事に関わった頑張りは書いていても、その頑張りを以後の生活と結びつけて考えていられなかったことがある。『キャリア・パスポート』に『キャリア教育の学びの視点』に立ったふり返りを書く欄や項を設けたことで例えば、学期の振り返りでは「クラスみんなでゴミ拾いを頑張ったので、これからも自分が住んでいる所のゴミを拾っていきたい」や「教室や廊下の清掃を頑張ったので、これからも清掃を頑張っていきたいと思う」などと書いてあり、学期や行事における頑張りと振り返りを以後の自分の生活につなげることができるようになってきている。

2 学校と地域社会との連携の推進

(1) 上田市立北小学校の実践から

北小学校では、8年前より4～6学年によるクラブ活動において、地域の方を講師にお迎えして活動を行っている。本校のクラブ活動の特徴は、クラブの運営の全てを地域講師の方が行い、教員はあくまでサポートをするだけであるということである。

本校では、学校目標「花とみどりと笑顔の学校」を受け、「社会において自立的に生きる力の育成、十年後、二十年後に大輪の花を咲かせるための今の創造」を柱にして、日々の教育活動に取り組んでいる。子どもたちがこれから生きていく社会は、様々な問題が山積し、予測不可能なことだらけであり、課題を乗り越え解決していく力が必要となる。その力を育成するために必要となってくるのが、「人とつながること」であり、人と人がつながることが、新しい社会をつくっていく力の源になる。本校では、人と人がつながるために、「多様な他者と関わり合う場」を設け、多様な他者と直に相互に関わることを通して、子どもたちが人に対する関心や愛着を深め、信頼感を構築できるような取組を行っており、クラブ活動における地域の方が講師を務めていただくことも、この考えに基づいている。

本校のクラブ活動は、クラブのプレゼンテーションからスタートする。これは、クラブの開設を希望する地域の方と4～6年生の児童が体育館に集まり、地域の方がクラブの魅力を1分で児童にプレゼンするというものである。動画入りのパワーポイントで魅力をアピールする方もいれば、校長をいきなり呼んでバドミントンの打ち合いをする方、児童や教員を巻き



込んで演技の楽しさを理解させようとする方など、実に様々な方法でプレゼンテーションが行われる。また、プレゼン終了後の児童アンケートにより、参加希望が0のクラブは成立しないため、地域の方がクラブの魅力を児童伝える姿だけではなく、「大人が本気になって表現する姿」も児童は目の当たりにし、自分自身がこれから生きていく上での大きなお手本となっている。

さらに、実際にクラブ活動がスタートすると、地域のスペシャリストが親身になって指導をしてくれるために児童の意欲もとても高く、講師の方と積極的にコミュニケーションをとる姿がどのクラブでも見ることができる。また、クラブ講師の方はボランティアとしても様々な活動へ参加してくれることが多く、児童と一緒に本校前の道路にあるフラワーロードと呼ばれる花壇の土作りや苗植えなどを行いながら、さらに距離感を縮めている。

このように地域の方と自然な形でつながっているクラブ活動であるが、このつながりをクラブ活動だけに限ってしまうのではなく、本校の教育活動のあらゆる場面で地域の方の力を得ることができるように、教員がより視野を広くし、子どもを真ん中にした教育活動を地域の方とともに展開していく必要があると思われる。

(2) 上田市立第一中学校の実践から

【2学年 「地域の方に学ぶ、地域とつながる学習」】

①活動の概要

本校の2学年では、1年間を通してキャリア教育を進めている。4月は「職業調べ」を行い、自分が気になっている職業について調べ、レポートにまとめた。7月には、「職業講座」と称して、実際に地域社会で働いている方を6名からのお話を聞き、「働く」ということや、今の学校生活と将来とのつながりについて考え、感じたことや学んだことをクラスメートと交流しながらプレゼン資料にまとめ発表した。そして、11月は「職業体験講座」を行う。「職業体験講座」では、地域（上小）で働く人に本校にお越しいただき、実際に体験することを通して働くことについて学習しながら地域の人とつながり、自分たちの生活は地域の人と密接に関係があることに気づき、将来の進路選択について考えを広げたり、深めたりすることを目指している。

②活動の実際

【7月 職業講座】（○成果、△課題）

○20代の若い講師を選定したことで、自分の将来を想像しながら話を聞くことを通して、今の自分にとって必要なことややるべきことについて考えを深めることができた。

○講師からの話をクラスメートに発信し、語り直すことで、聞いた話を自分の体験や知識と関連付けて深める姿が見られた。

△「聞くこと」が中心になるため、「お客様」意識が強いように感じた。事前指導の段階で、なぜ一連のキャリア学習が行われているのかを考える時間を設ける必要があった。



③今後の課題

学校と地域の連携について、文科省は『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』で、「子供たちの生きる力は、学校だけで育まれるものではなく、家庭における教育はもちろんのこと、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるもの」であることを前提に必要だと考えられている。そうしたときに、学校は、「地域だからこそ学べること」と「地域では学ぶことが難しいこと」を十分理解した上で、どのような人々と連携していくかを考える必要があるといえよう。特にキャリア教育という視点では、何のためにどのような人々と出会い、何を学んでいくのかということ念頭において取り組んでいく必要がある。

（3）上田市立第二中学校の実践から

【職場体験学習に向けての事前学習】

①キャリア・ウォークラリー

2学年生徒が4月に、学校近隣の72の事業所にご協力いただ



き、地域で働く方々の職場を見学したりインタビューをしたりする活動を行った。地域の方々がどんな思いをもって働いたり、お客様と接したりしているのかを直接お聞きした。生徒一人ひとりが「生き方」や「働くこと」への考えを深め、職場体験学習に向けて「追究したいテーマ」を設定した。

《活動後の生徒の感想から》

「生き方」といってもたくさんあって、上田市や長野県に貢献したいといっってそれに関わった仕事に就く人もいれば、家の店を受け継ぐ人もいて「生き方」とはいろいろなものがあるのだなと感じた。自分の仕事に一生懸命になっている方々はとてもかっこいいなと感じました。

②ポスターセッション

キャリア・ウォークラリーで学んだ内容や職場体験学習に向けての「追究したいテーマ」を、班ごとに1枚のポスターにまとめ1学年生徒に向けて発表した。



③職場体験学習事前学習会

キャリア・ウォークラリーでお世話になった長野銀行の上田支店・三好町支店・坂城支店の3支店の行員さんにお越しいただき、事前学習会として「金融リテラシー講座」および「マナー講座」を行っていただいた。地域で働く方々から直接、職場体験に活かすことのできるマナーを学ぶ貴重な機会となった。



④職場体験学習に向けての事前学習

事前学習の一環として「わたしの履歴書」を作成し当日各職場へ持参した。「職場体験学習を通して追究したいテーマとその理由」や「自分が将来仕事に就いて働くときに大切にしたいこと」などについて記入した。生徒が主体的に職場体験学習に臨む一助となり、職場の方からも「履歴書は限られた時間の中でどんなことを知りたいのかを把握するのに役立った。」等のお言葉をいただいた。職場の方たちへ生徒の思いを伝える助けになった。

【職場体験学習】

《学年共通テーマ》

- ①自己課題を追究しよう。
- ②社会の中で生きていくことについて考えを深めよう。
- ③職場体験学習を通して学んだことを今後の生活に生かそう。



以上の3つを学年共通のテーマとして、7月19日（水）～20日（木）の2日間、職場体験学習を行った。職場体験学習中に、インタビューの時間を設けていただくように各職場にお願いをした。各自テーマに沿って質問をし、追究につながられるようにした。職場からの事後アンケートでも「生徒さんからのインタビューは多くの職員と話ができる良い企画だと思う。」等の回答をいただいた。

【職場体験学習まとめ】

生徒一人ひとりが職場体験学習での学びを、Chromebook を用いてスライドにまとめた。まとめは職場体験学習の3つのテーマに沿い、「テーマ① 自己課題に関わって、学んだこと・考えたこと」「テーマ② 「社会の中で生きていくこと」について考えを深めたこと」「テーマ③ 今後の生活に活かしていきたいこと」「職場体験学習の振り返り」の4つの観点で行った。各自のまとめは文化祭展示として保護者や地域の方に参観いただいた。また文化祭での学年総合発表として、職場体験学習での学びを職場ごと「キャッチコピー」としてまとめ、全校生徒及び保護者・地域の方に発表した。

【実践の振り返り】

本校2学年生徒は昨年度から、総合的な学習の時間「生き方学習」の一環として、「職業調べ」や「身近な人へのお仕事インタビュー」などの活動に取り組んできた。2学年では地域の方々にご協力いただき、インタビュー活動や事前学習会、職場体験学習を行った。生徒が地域の方々と直接関わり、自分の疑問や思いを伝えたり、地域の方の言葉から新たな気づきを得たりする機会を多く得られたように思う。地域の方々は快く生徒の活動に協力して下さった。職場体験学習の事後アンケートでは、今後の課題についても示唆を与えていただいた。今後の教育活動に活かしていきたい。

(4) 上田市立塩田中学校の実践から

【職業しらべ・ポスターセッション（1学期）】

①目的

- ・身近な職業について調べることで、働くことへの関心を高める。
- ・学校で学ぶことが将来につながることを知ることで、学校生活を振り返り、よりよい生活を送ることができるようになる。

②活動のようす（生徒の感想から）

- ・今日、総合でポスターセッションを行いました。オーケストラ団員やパティシエなどの知っているようで知らなかった仕事の内容があって、すごく興味がわきました。自分の進路を考えるきっかけにもなってよかったです。
- ・ポスターセッションがありました。自分たちが調べた職業以外の話も聞けたのでとても勉強になりました。それぞれ大変なところもやりがいも違うけど、すべていい職業だな、と思いました。
- ・ポスターセッションをしました。どの班も丁寧にまとめてあってとても分かりやすかったです。自分たちの班も質問に答えられて、良くできたと思います。

③職員の反省

- ・職場体験アンケート前にできたので良かった。
- ・様々な職に触れることができたので良かった。
- ・発表時間、発表方法も適切だったと思う。一つ一つのグループの位置がもう少し離れると発表者の声がさらに聞こえてよかったと思うが、スペース確保が難しい。
- ・生徒の個人差があり活動をしたから職業観の深まりが見られたのかを判断するのは難しい。友と調べ、まとめ、発表し、聞きあう活動を通して、本番の職場体験に向けた興味・動機づけが図ればよい。



【職場体験学習（2学期）】

①目的

- ・いろいろな職場や施設で働く方々と共に活動することを通し、望ましい職業観や勤労観を育てる。
- ・職業に対する正しい知識を得ると共に、自分の進路選択への心構えをつくる。

②活動のようす（生徒の感想から）

- ・この体験を通して、旅館ではお客さんが見ているところでも見えないところでも仕事をしているんだなと思いました。職場体験での仕事は裏方で表に出るということはありませんでした。だけど、旅館という職業はお客さんが見えないところでも一生懸命仕事をしているから、心地よく泊まれるんだなと思いました。



- ・エーコープでの体験を通して、エーコープでは、常に「お客様のために」ということを収入以上に大事にして働いていたので、自分もこれからの生活では、自分の利益だけで、行動するのではなく、常に人のことを考えて行動したい。

③職員の反省

- ・緊張もあり学校では見えない姿が多くみられ、今後の生活に生かせればいい。
- ・事前の学習でよく調べてあったことで、熱心さが伝わった。また、そのために積極的に質問をするなど、有意義な体験になった。
- ・学校で調べているだけでなく、実際に職場に出向いて体験をさせていただけたことで、「働く」ということに対する考えが、より一層実感のこもったものになったと思います。



3 キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する

(1) 上田市立城下小学校の実践から

本校3学年は、地域のゴミ拾い活動を通して、地域社会との連携を図ってきた。



地域探検学習を行っている中で、地域のためになることをやりたいという児童の意識から始まったゴミ拾い活動は、事前にゴミ拾いへ行く場所を決めて、その場所のゴミを拾ってくるようにしている。場所に落ちているゴミを拾う度に「こんなゴミもあった。」「もっとゴミを拾えば、城下地域も美しくなるね。」とゴミ拾いをしながら感じたことを言葉に表している。そんな言葉の裏には、地域のために行動できている自分を誇りに感じることや地域への愛着を大きくしていることが伺える。更に、「落ちているゴミをそもそも減らすにはどうしたら良いだろう」「もっと城下地区を美しくするために自分達はどんなことができるだろう」とゴミ拾い活動から自分の問題意識を膨らませることができている。

他方で、ゴミ拾い活動をキャリア教育活動に位置付けたいと考えた担任は、キャリア教育において高めていく資質能力をゴミ拾い活動の評価規準につなげることを考えた。そこで、ゴミ拾い活動の振り返りを学習カードに書き、それらをみんなで読み合い認め合うことで『自己管理及び自己理解能力』につなげることを考えた。例えば、振り返りを行う際に学習カードに『活動について自分が頑張ったと思うことを書きましょう』という項をつくり、自分のできたことを自分で認めることができる場を設けるようにした。クラス全体では、自分達が行った活動（ここではゴミ拾い活動）のどんな所がすばらしかったのかを考え、ゴミ拾いの意義について考える場を設けるようにした。振り返りでは、「ゴミ拾い活動をして、自分はもっと城下を大切にしたいと思うようになった。」「自分は城下地区のために行動できることがわかった。」と書いていた。キャリア教育の資質能力の視点である『自己管理及び自己理解能力』について自分で自分を認めることや自分の能力を磨くことを大切にすることができた。

ゴミ拾い活動の振り返りに、キャリア教育の視点を盛りこむことで『自己管理及び自己理解能力』を高めることができた。学校における活動に、キャリア教育の視点を盛りこむことで、更にキャリア教育における資質能力の向上につながると考えている。

五 キャリアフェス（伊那市）に参加して

（１）伊那市キャリアフェス

伊那市では平成 26 年 12 月にキャリア教育憲章を制定し「地域で子どもを育てよう」子どもは地域の宝・地域の未来の基本理念の下、伊那市への愛着を深め、将来伊那市を支える人材を育成することを目的に毎年 11 月に市内の全ての中学 2 年生を対象に「伊那市中学生キャリアフェス」を開催しています。地域に関わりのある事業所や団体がブースを出展し、参加した生徒は出展ブースを巡って多くの大人とふれあい、語り合い、自身のキャリア（＝生き方）を考える機会としてほしいとの想いを込めて開催しています。また、参加いただく大人の皆さんにも、将来地域を担う子どもたちと直接ふれあっていただくことで、参加者全員がそれぞれのキャリア（＝生き方）を見つめ直し、考える機会となることを期待しています。「フェス」という言葉がついておき、大人も子どももとにかく楽しむということも大切にしています。伊那市はキャリア教育に力を入れていますが、その取組の中心となるのが伊那市中学生キャリアフェスです。教室で学ぶことのできない大きな学びの場となっています。（伊那市キャリアフェスホームページ抜粋）

（２）キャリアフェス参加報告

①キャリアフェスへ参加することは、企業側としては、自分の会社の宣伝や自分の会社について中学生に知ってもらえる機会となり、生徒側は、自分の関心あることや新たな自分のスキルを発見する機会となっている。そんな位置づけにあるキャリアフェスでの活動は、キャリア教育において大切にされている「社会的・職業的な自立に向けて必要な資質・能力」の育成につながる活動になっている。キャリアフェス主催者の方は「伊那市には新しくできた会社やまだ知られていない会社がたくさんあり、キャリアフェスは自分の会社がどんなことをやっているのかを中学生に伝えられる素晴らしい機会となっています。それと合わせて主催者として、会社に就職するということがどういうことなのかや会社で働く上で大切なことも中学生に伝えて欲しいと企業の方に言ってあります。」と話していた。そんな企業のブースでは、会社の宣伝の他に自分がどんな思いで会社を立ち上げたのかや会社に勤めているのかなど、中学生に社会的・職業的な自立をうながすお話もしていた。中学生は「自分が関心あることをやっている会社の方のお話を聴くことができ、もっと自分も頑張りたいと思った。」と話していた。企業の方に普段聴くことができないお話を聴いて、自立していこうという思いやスキルを高めたいという思いをふくらめていた。市内の企業及び市内の生徒が企画運営するキャリアフェスはキャリア教育の育成及び伊那市を更に好きになる場となっていた。

②今回、伊那市中学生キャリアフェス 2023 を視察させていただき、このイベントが、伊那市の中学生が自分の将来のことを考える一助になっているのではないかと感じた。

まず、生徒が自分の考えで自由にブースを選択することができていた。84もの団体が参加していることで、自分が希望する職種や興味のある職種について、実際に体験したり職場の方と直接話をしたりすることができるのは、中学生にとってはとても貴重な体験になると考えられる。1学期には、職場体験学習が実施されているようで、そこで学習したことがこのキャリアフェスを経ることで、さらに深まっていくのではないだろうか。

また、まだ具体的に希望する職種がない生徒にとっても有意義な時間になっていたと考えられる。

直接話を聞けたり、仕事を体験できたりすることで、様々な職業の仕事を知ることができる。職場体験学習では限られた職業しか体験することができないが、キャリアフェスではより多くの職業に触れることができる。このキャリアフェスを通して、興味のある職業を見つけることができる生徒もいるかもしれないし、それだけではなく地元どんな会社がありどんな仕事をしているのかを知れることは、大人になってからも役立つことだと思う。

これだけ大きなイベントを開催できるのは、学校だけでなく行政が取り仕切っているからこそであると感じた。産学官が連携しているからこそ、このイベントを継続することができているのだと思う。

一方で、なかなか特定のブースによらないまま時間が過ぎてしまっている生徒もいた。事前学習がどのように進められているかわからないが、時間を区切ってブースに参加できるような形になっていたため、最低限どのブースを回るかを事前に考えておいても良いかと思った。また、そういう生徒にこそ、このキャリアフェスの活動が生きるのではないかと感じた。

キャリアフェスのようなイベントを同じように開催できるか、と考えるとすぐには難しいとは思いますが、各校で地元の企業の方に協力していただき、校内でのキャリアフェスのような行事ができるのもおもしろいかもしれない。いずれにしても、学校だけでなく、行政や企業の方と連携することで、生徒の職業観を深めるような学習につながる活動ができると思った。

③「学校関係なく、みんな仲良く話を聞ける。学校も年齢も関係なく、大人も子どもも一緒に話せる。」実行委員の生徒に「キャリアフェスの良いところはどんなところだと思いますか？」とたずねると、このように答えてくれた。「大人と中学生の距離の近さ」。今回キャリアフェスを視察させていただいて、一番印象的だったのはその距離の近さだ。オープニングでは、大人代表の実行委員の方から「大人が踏み出すことが大切。」との声かけがあり、それに応えるようにそれぞれのブースで企業の方たちが積極的に中学生に声をかけられていた。企業や仕事内容についての説明だけでなく、地域貢献や世界とのつながりについて実体験をもとにされるお話や言葉にはパワーがあり中学生の心に刺さる部分が多かったように感じた。企業の方たちの真剣な眼差しに次第に中学生も真剣な表情になり力強く頷きながら話を聞く姿が印象的だった。地域で働く大人たちと直接、真剣に言葉を交わすことを通して、中学生たちも自分たちが必要とされ、期待されていることを感じることができ、その経験が将来の選択に生きてくると感じた。

キャリアフェスは今回で6回目とのことだったが、84もの団体が参加されており、その選択肢の多さも魅力の一つだと感じた。選択肢が多く用意されていることで、生徒一人ひとりが自分で選択し、自分から行動して話を聞いたり体験をしたりできる。本校の実態として、言われたことは、真面目にしっかりできる一方受け身な姿勢になりがちなのが課題として挙げられる。今回のキャリアフェスのように「自ら選択して行動する経験」が生徒一人ひとりのキャリア形成にとって大切な経験になると感じた。

④伊那市中学生キャリアフェス2023は、地域の事業所84団体にブースを開いていただき、生徒がそのブースを回っていくという、合同説明会のような形で実施された。特定のブースにねらって移動する生徒もいれば、空いているブースにとりあえず動く生徒の姿も見られた。実行委員として活動している生徒は、ブースで話を聞くよりも、運営として様々な人と関わることを大事にしているように見えた。いくつかの生徒に「このキャリアフェスに期待していることは何か」という質問をしたときに、ある生徒は「将来、自分になりたいと思う職業が見つかるかもしれない。それを実際に働いている人から聞いて、肌で体験する。それをできることが楽しみ」と答え、別の生徒は「おもしろい人、楽しい人の出会いを期待している。テレビとかネットにはそういう人がいるけれど自分が住んでいる

ところにも、そういう人やすごい人がいたとしたら嬉しい。そういう出会いに期待しています。」と答えた。以上の生徒の発言からも、このキャリアフェスは、「生徒が様々な仕事を知る」という点と「地域にふれる」という点で有効な活動だと考えられる。職業体験や職場体験のように、「働くこと」に焦点を当てた活動と、このキャリアフェスのように「キャリア（生き方）を知ること」に焦点を当てたような活動の2つをバランスよく回していくことが大切だと考えられる。

⑤広い体育館にたくさんの企業のブースが広がる様子に、大学生対象の企業合同説明会のような感じがした。中学2年生に対してどのような説明を行うのか、中学2年生の受け止め方はどうなのか、様々な疑問が出てくる中で、キャリアフェスが始まった。

とあるブースを見ていると、企業の方と中学生が部活の話をしている。企業の方は高校での部活選択について自分の経験をもとに中学生に話していた。また、メインステージの横では、「ヒューマンコーナー」があり、大人副実行委員長とその仲間の木工職人の方が自分のこれまでの仕事で得たことについて中学生に熱く語っている。

不思議な雰囲気には圧倒されたまま、ファンヒーターの前で暖まっていると、同じように暖を取りに来た大人副実行委員長の方と目が合った。企業側にとって、この会はどういう位置づけで参加しているんですか？と聞くと、いろいろ教えてくれた。

始まった当初は、まさに大学生向けのようにいかに自社に就職してもらえるかを目的に行っていたそうだ。でも、中学生の発達段階ではそこまでそれぞれの会社についての意識が大きくないことが分かかってきたので、そこからは、いかに働く大人の姿を中学生に見せるかに力を入れてきているのだという。それが、地域の「大人」が子どもたちを育てることであり、そのことが地域には自分たちを見守っている大人がたくさんいるんだと子どもたちが思うことにつながり、「伊那」という地域に対する愛着を深めることにつながり、「伊那」にある様々な仕事を将来の選択肢の一つにしてくれることにつながっている。それを各企業が理解しているので、参加企業は申込制を取っているけれどほぼ全ての企業がリピートし、増えることはあっても減ることはないとのことであった。だからこそ、自分が最初に見た部活の話をするブースであり、自分の生きてきたことを語る大人の姿であった。伊那市の将来を長いスパンでとらえる取組の偉大さに圧倒された。

また、さらに、圧倒されたのが小売企業向け在庫管理ソフトウェア開発ベンチャー企業のブースでの創業者の話である。世の中には2万種といわれる職業があり、そこに目を向けることで自分に合う仕事が見つかるはずなのに、子どもたちは普段目にするわずかな職種から自分の進路を選ぼうとする。これは、本校の職場体験の職場選択の際にもよく見られることであり、やはりこのベンチャー企業に足を止める中学生は少なかった。こういった子どもたちの現状に対して、企業を立ち上げるにあたって様々なことを乗り越えてきた創業者の方は、どのような思いで子どもたちにアプローチしているのかを質問させていただいた。するとその方は、「確かによくわかる仕事のブースにはたくさんの生徒が集まることは明らかです。自分たちのやっている仕事は中学生にはよくわからない仕事かもしれません。でも、それでも知らせないという0の状態よりも、やれば必ず1%でも2%でも中学生に伝わる可能性はあります。やらなければ何も生まれません。それよりも可能性がある『伝える』という判断を自分はしたいんです。そして、伝えた中学生が将来『こういう会社があったな』と思い出してくれればいいなと思ってここで出展しています。また、自分は東京でも大阪でも仕事をやって伊那に移住してきました。今の時代はどこにいても世界と仕事ができます。伊那だから最先端の仕事に就くことはできないではなく、伊那でもいろいろな仕事ができるんだということを見せたいとも思っています。」としっかりとした口調で答えていただいた。教室で子どもたちに対して、将来に向けて何が大事なかなどと偉そうに語っていた自分であるが、「人々が働く」ということについて、本当は何も知らず考

えてもいなかったことに気づかされ、自分がまず社会とつながらなければいけないと感じさせられた今回の視察だった。

五 研究のまとめと課題

(1) 『キャリア・パスポート』の活用の工夫』について

キャリア・パスポートにとじこむものについて、行事のふり返しだけでなくキャリア教育の視点である子どもの「自己理解」「他者理解」「役割理解」につながるような内容を書くことで、キャリア・パスポートとキャリア教育で育む資質能力とが結び付くと思われる。キャリア・パスポートにとじこむもの内容（書く項や欄の設定など）を更に工夫することで、キャリア・パスポートの内容がキャリア教育における資質能力の向上という点で充実すると思われる。ただし、キャリア・パスポートにとじこむものや内容を工夫するだけでは、キャリア教育の充実にはならない。キャリア・パスポートにとじこむものや内容の工夫だけではなく、子どもの活動や体験することにも重点をおいて、キャリア・パスポートを活用していくことが、キャリア教育の充実という点で大切であると思われる。

(2) 「学校と地域社会との連携の推進」について

本委員会の学校では、地域の方や専門の方を学校にお呼びし職業に関わるお話を聴く学習や職場を開放頂き職業体験を行うなど、学校と地域社会との連携を基に、キャリア教育の充実を図った。学習後の児童生徒の反省感想を読むと、キャリア教育における資質能力の向上を図ることができたと思われる。また今年度行った伊那市中学校キャリアフェスの視察からは、生徒が地域で活躍する企業の方々と直接会って言葉を交わし、企業や仕事内容についてだけでなく地域貢献や世界とのつながりについて話を聞いていたことは、自分達が地域社会の中で求められる大切な存在であることを感じる大切な機会になっていた。以上のことから、学校と地域社会との連携の推進がキャリア教育の充実と深まりにつながると考えられることから、委員から各校に提案していきたい。ただし、キャリア教育に関わる学習を行う環境（小学校で職場体験ができる環境など）が異なるので、環境の中で可能な実践を行っていくことも大切であると思われる。

(3) 「キャリア教育の学びの視点や資質・能力を意識し、取り組み内容を整理する」について

学習指導要領と既存の教育活動をキャリア教育の目的に照らして見直していきながら、学校教育全体を通して、キャリア教育を推進していきたい。体験活動に限らず、キャリア教育の視点で教育活動全体からその地域・学校の良さを学び自校の環境及び各学年の発達段階や実態に合った教科指導を行っていくことが大切であると思われる。